

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300015		
法人名	有限会社しましまハウス		
事業所名	しましまハウス河合		
所在地	岐阜県飛騨市河合町稲越491-2		
自己評価作成日	令和5年9月4日	評価結果市町村受理日	令和5年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvossvoCd=2193300015-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和5年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然豊かな土地柄を活かして、四季折々の楽しみを見つけたりして生活リハビリに活用(薬草摘み、山菜処理)したり、一緒に支援しています。地域の行事にも、参加出来るようにしたり、地域の方々とのふれあいの場を作るよう努めています。自家農園も維持しながら、作物ともふれあいの場を設けています。また、個々の能力を引き出し活用出来るように支援しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>過疎地域にある事業所は、災害時における周辺住民の一時避難場所にもなり、移動販売車が来た時の声掛けや介護相談など、地域密着の運営が自然に出来ている。職員も地元出身が多く、気心の知れた人間関係の中で和気あいあいと利用者の支援にあたっている。親しみのある方言も飛び交い、利用者も安心して日々暮らしている。庭の畑で収穫した野菜や、旬の食材を使った3食手作りの食事は、季節感をたっぷり味わうことが出来、利用者の満足度は高い。管理者は、日々の業務を見直す機会として、グループホームの役割と支援について、職員と共に再確認をしながら外部評価調査の自己評価に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然豊かな環境にて、故郷を感じ、余生を過ごせる様にとの理念にもとずいて、入居者様、ご家族様、職員が一緒になり、心地良いホーム作りを目指している。	理念は、リビングの目に付く場所に掲げている。理念全文を即答できる職員は少ないが、勤務年数の長い職員が多く、事業所が目指すサービスのあり方は長年の間に意識付けされ、日々の支援にあたっている。	理念の文言は長文で暗記は難しく、職員は理念を自分なりに解釈している部分もあるように思われる。誰もが覚え易く、職員の記憶に残る要約した理念、共有方法にも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には、地域の方や、所轄の警察官等の出席をお願いしている。地域の自主防災組織にも加入している。	今年春祭りが再開し、地元の獅子舞の巡回があり、地域との交流になった。野菜の差し入れ、事業所周辺の木の伐採、畑を耕す作業などには地域住民の協力がある。事業所からは郷土食を作った際には住民に配るなど、自然な形でつながりが出来ている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍もあり、近年は運営推進会議も書面報告が続いていましたが、電話や受診の際、ご家族様との対面の時には意見を聞いたりしてサービス向上に活かしている。	コロナ感染症対策も徐々に緩和されているが、事業所は夏に陽性者が出た為、引き続き書面会議としている。家族には運営推進会議資料を配布し、電話で意見を聞いている。運営に関する意見は特に出ていない。自己評価票は職員の意見を反映させて作成している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に、市役所、地域包括センターと連絡を取り合っており、事故報告の件、コロナ感染の件等報告、意見等をいただいている。	市主催の研修が、リアルとオンラインで行うハイブリット会議で開催された。管理者とケアマネジャーが会場での参加を選択して情報を得ている。行政との窓口は本部事務局で対応し、管理者に情報を伝え連携を図っている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修、外部研修等を踏まえて、職員間の共通理解とし、身体拘束や虐待について、話し合っており取り組んでいる。	「身体的拘束等の適正化のための指針」があり、委員会を定期的に開催し、運営推進会議で報告をしている。前回の改善事項であった議事録の整備を引き続き継続し、職員一人ひとりが資料を参考にして身体拘束をしないケアに努めている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年3回の、高齢者虐待と身体拘束等の適正化推進のための委員会開催やそれに基づく内部研修を行っている。	管理者と職員は、虐待をしない事を当たり前とし、利用者の尊厳を守りながら日々、支援している。身体拘束等の適正化委員会と併せて虐待防止について話し合っており、虐待防止に関する資料も用意している。	虐待をしないことは当たり前になっているが、委員会や研修開催等で虐待防止を徹底するには、詳細な記述、記録が必要と思われる。また、職員が虐待防止に関する正しい知識を更に身に付けられるよう、日頃のケアの自己チェックにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を使用される入居者様や、ご家族様へのアドバイスや関係者様との話し合いが円滑にできるよう、支援している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時には、契約者様との意思疎通を中心に心掛け、不安を取り除く様、十分な説明を行い、不信感が出ない関係性を維持していけるように務めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様とご家族様の面会、なじみの方々との面会、電話などを通じて、外部の方との意見などを、運営に生かしている。	運営推進会議報告書は家族にも配布し、運営内容を共有している。毎月、同一法人の3事業所共通の通信や事業所単独のホーム便り、入居1ヵ月経過した利用者の暮らしぶりを伝える便り等は、写真を多く掲載するなど、家族とのつながりが途絶えないよう工夫している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例ミーティング、小ミーティングでの意見交換をすることにより、職員間の共通理解を深めるよう努めている。	管理者と職員は、月例及び毎日のミーティングで意見交換を行っている。職員から、手すりやスロープが必要な場所の提案などがあり、実現に繋げている。経験年数の長い職員も多く、風通しのよい関係が育っている。本部の代表代理が毎週定期的に巡回し、職員の意見を運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	休み希望や、それぞれの勤務体制の都合に合わせる事や、都合により、出勤できなくなった時の勤務交代は、職員間同士で円滑に行えるように努めている。	子育て時期を過ぎた職員が多く、急な欠員も職員間で協力し合っている。個々のワーク・ライフ・バランスにも配慮しながら、要望に沿ってシフトを組んでいる。また、効率よく働きやすい職場環境作りに努めている。ITの導入はせず、紙ベースでの書類管理を継続している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍でもあり、研修など、施設内での勉強会、内部研修に努めている。ケアマネ会議に出席し、他のグループホームでの事例を参考に、研修を行っている。	コロナ禍で研修は内部研修が多い。市主催のリハビリ体操指導者講座を受講した職員が、そのノウハウを利用者への支援に活かしている。職員には得意分野で役割を担ってもらう事で、働く意欲の向上につなげている。資格取得費用の補助もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ会議や社会福祉協議会の研修に参加するよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者様と同郷で、好物が一緒等、共通の話題で、少しでも近づいた関係性を作る様、努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が一人ひとりと向き合う時間を作り、思いを知り、情報を共有した支援が出来るように努めている。	全体的には介護度も低く、自分の思いや要望を伝えられる利用者が多い。1対1のケア場面での会話からも思いを把握することができる。利用者の様子を観察し、出来る事、やりたい事を見出し、職員間でその情報を共有しながら、個別支援計画に活かしている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様には来所時や、電話で近況を常に伝え、主治医には、受診時に状況を伝え、職員間では、毎日支援する内容を把握し、必要な介護計画を作るようにしている。毎日のミーティングにて情報を月に1度まとめて記録を残している。	利用者の日常生活での役割を設定し、生活リハビリを中心に介護計画を作成している。家族には電話で近況を伝え、意見や要望を聞き、計画に反映させている。利用者の「できるようになる事」「できなくなったこと」を職員がよく観察し、その情報をモニタリングに活かしている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	午前、午後、深夜帯の様子を各自の支援ノートに記入し、繋がりのある支援を行っている。日々の身体の様子や、情緒的な面からも、適した支援が出来るように努めている。	1日を3つの時間帯に分け、各担当者が利用者の様子をノートに記録している。利用者に関心のムラが見られる時は、転倒や徘徊が起きないように、全職員が目を通す記録ノートに、管理者が赤字で表記し事故防止につなげている。手書きの記録はモニタリングに有効活用させている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の情報を共有し、その時々ニーズに対して、必要な支援やサービスの提供を行っている。	定期的に移動販売車の巡回があり、利用者は、好きな菓子を自分で購入できる楽しい時間である。近隣の人にも販売車が来たことを声掛けするなど、住民との交流機会にもなっている。事業所は、家族が面会に訪れる際には、最寄りのバス停まで送迎することもある。	

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の皆さんや入居者のご家族、職員が協力して、施設的环境を整えたり、新鮮な季節の作物を食したりと、家庭的な生活が営めるよう協力しあっている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの主治医との関係を継続し、受診に必要な情報をその都度、文章にして、提供し、適正な医療を受けられる様に支援している。	協力医の往診が無いため、職員が協力病院まで受診同行をしている。従前のかかりつけ医継続の場合は、利用者の健康状態の情報シートを渡し、家族が同行している。受診結果は共有している。新型コロナワクチン接種の為に交通費は、市から助成を受けることができ、職員が同行している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した時には、必要な情報を提供し、退院時には入院中の情報を得て、帰所後適切な支援が行えるよう医療機関と協力している。	普段から病院関係者と情報交換や相談などで連携しており、安心して入退院ができる体制がある。また、救急車で搬送の時は、利用者一人ひとりの医療情報シートを、直ぐに渡せるよう準備ができています。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化し、医療支援が必要になった時や、看取りが必要になった場合は、当施設での支援が出来ない事を、入所時には説明し承けて頂き、適切な施設への相談をし、ご家族様の支援に取り組んでいる。	医療機関の往診や在宅医療体制が整っていないため、事業所での看取り支援が出来ないことを説明し、家族の理解を得ている。重度化で医療支援が必要な初期段階で、他の施設や医療機関との連携に努め、安心して利用者の移行ができるよう家族の支援をしている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や、事故発生時には、過去の経験や、多職種の方々のアドバイスを受け、初期対応に備えている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自主防災組織に加わり、年1回の防災訓練にも、情報を提供していただいている。当施設でも、年1の防災訓練を行っている。	事業所敷地の横斜面は土砂崩れの危険個所であったが、砂防堰堤工事は済んでいる。廃校利用の建物は2階があり、水害時は垂直避難を想定し利用者が階段で避難する訓練を実施している。近隣住民の避難所としても利用できるよう、布団や備蓄品も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、自尊心を傷つけないように、同じ目線でゆっくり会話し、話を聞く様に対応するように努めている。	前回、利用者が使う排泄用品の適切な管理が取り組み課題であったが、目に付かない場所やカーテンを引くなどして改善されている。家族に配布する通信の写真添付等の取り扱いも、プライバシー保護を遵守している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が日常生活で、職員と1対1で、心おきなく話せるようにしたり、又その際希望や、思いを聞ける様に働きかけている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員や施設のきまり事を優先するのではなく、利用者様それぞれのニーズや希望に合わせて、支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の内容については、好み、出身地、日常会話の中やイベントの際に問いかけを行い、ご本人の思いに沿う様、心がけをしている。	食事は3食手作りで提供している。旬の野菜を使いながら、献立には利用者の意見も取り入れている。コロナ禍ではあるが、衛生面に配慮しながら、利用者が手伝うこともある。外食が出来ない為、青空食堂と称して庭先にテーブルを持ち出し、外食気分で食事を楽しめるよう工夫している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調、身体能力、病状等、かかりつけ医のアドバイス等、栄養のバランスを考え健康保持に努めている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや入れ歯の衛生管理に努めている。また、残存歯のある入居者様は、歯科受診を促し、ご家族様の協力をお願いしている。	利用者が自発的に毎食後の歯磨きを行う習慣ができています。代表が歯科医であり、歯科衛生士の資格を持つ管理者が口腔ケアの大切さを利用者に伝えながら、見守りや声掛け、出来ない部分のサポートに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様、其々の排便、排尿のサイクルを把握し、声掛け、誘導、介助を行い、自立に向けて支援を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人の、体調、好みを把握し、喜んで入浴していただけるよう、工夫している。季節を感じる入浴(菖蒲湯、ヨモギ湯等)にもこだわって支援しています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	衛生面を考慮し、シーツ交換、布団干し等、気持ちよく眠れるように心掛け、支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が、入居者様の服薬について共通理解し、ミーティングの時には、事細かく説明し、業務日誌に記載し、服薬の支援をしている。	服薬支援は、担当者を決めて責任を持って行っており、誤薬でのヒヤリは起きていない。処方に変更があった時は、職員間で利用者の体調に注視しながら、その記録を主治医に報告し指示を仰いでいる。全職員が情報を共有し、一貫した服薬支援に努めている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室内の楽しみ、ホールでの楽しみ、それぞれ個人の生きがいを見つけ出し、支援している。	利用者の残存能力や経験を活かし、日常生活で個々の役割を決め支援している。折り紙で千羽鶴を作る人、畑作業が得意な人、毛糸で小物を作ることが好きな人など、個々の楽しみが継続できるよう支援している。業務日誌にも、利用者名と役割を記載し、職員間で共有し実践につなげている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者様の希望、ご家族様の希望にはなるべく添える外出支援を行っている。御家族様同伴の受診の外出、遠出をしなくても施設周りの散歩、青空食堂等、施設でも工夫をして支援している。	コロナ感染症予防対策は緩和の方向にあるが、家族面会はこれまで通り玄関先で行い、外出も事業所周辺の散歩にとどめている。受診時が唯一の家族との外出機会である。また、外食の代替として、庭先にテーブルを出して食事を楽しめるよう工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のお金の所持は、お断りしていますが、移動販売車での買い物支援には、飛騨市発行の「いきいき券」を使用する事について、ご家族様の理解を得ている、支援をおこなっている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様より、2週間に1度電話があり、心待ちにしている入居者の方もみえ、封筒、切手持参のご家族の方もみえ、其々の支援を行っている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通空間は、一目でわかるように工夫し、季節の花を飾ったり、四季折々の掲示物を行ったり、五感に触れる様に、工夫、支援している。	事業所は、廃校小学校が研修センターになった建物にスロープや手すりを設けて安全対策を施し、運営をしている。玄関口の下駄箱、広い廊下、旧給食室を台所とし、トイレも一か所に並んでいる。数人で利用できる広い浴室などは、そのまま活用し開放感がある。職員が持ち寄った季節の花や利用者の作品を飾り、居心地よい空間となっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士のテーブルにしたり、其々の身体能力に合わせた、居場所の工夫をしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人のなじみの物を持参していただいている。趣味の写真、本、飼っているペットの写真等や、筆筒の中には、お気に入りの洋服も持参して頂いて、快く過ごせる様、支援している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居年数により、介護度が上がり、出来ることが、不可能になってきている場合は、居室の移動や寝具、衣類の交換を行い、安全な生活が出来るよう支援している。		